

スバルは、いつの時代もスバル独自の技術力を結集して「安全に、快適に、そして走る愉しさ」をお客さまに提供できる高性能なクルマづくりを目指してきました。安全なクルマづくり、安全な交通社会実現への貢献、人にやさしいクルマづくり、そして、環境に配慮したクルマづくり、スバルは常にクルマ社会とクルマづくりの未来を考え、取り組みを進めていきます。

安全なクルマづくり

基本的な考え方

クルマと人・社会・環境の調和した豊かな社会づくりを目指し、スバルは卓越した環境・安全性能を徹底的に追求し、さらにクルマの持つ「走る愉しみ」を提案していきます。

スバルはどのような道においても「安全に、快適に、そして走る愉しさ」を得ることのできる高性能AWDを進化させ続けてきました。「走りを楽しめると安全になる」、スバルはこう考え、事故時の安全を確保するパッシブセーフティ技術はもちろん、事故を未然に防ぐアクティブセーフティ技術の開発を重点的に進めています。先進安全技術を通じてお客さまに「安全」「安心」そして「感動」を提供していきます。

安全なクルマづくりの取り組み

・走りと安全の技術

クルマの「走る・曲がる・止まる」という基本性能を磨き上げ、先進のセーフティシステムを駆使して事故を未然に防ぐ「アクティブセーフティ」。スバルは事故を起こさないことが究極の安全と考え、事故を生み出すさまざまな不安要因をクルマ側が事前に認識して運転者をサポートする先進安全自動車の研究開発に取り組んでいます。スバルのコア技術であるステレオカメラによる前方認識技術を軸に情報通信技術との融合を図り、周囲の交通環境を的確に「認知」・「判断」し、運転者の「判断」・「操作」を最適にかつ統合的に支援する技術を研究開発しています。

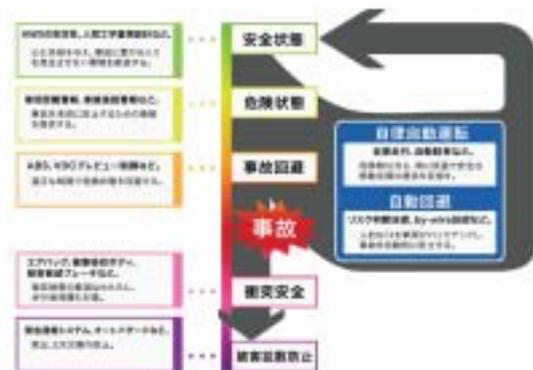
・スバルの知能自動車開発理念

スバルは、「どのような状況下でも安全でありたい」という安全思想のもとに車両知能化技術の開発に積極的に取り組み、革新的な先進安全システムを通じて「安全」「安心」そして「感動」を提供します。

・衝突安全技術

スバルは「レガシィ」から軽乗用車にいたるまで軽量で強度の高いスバル独自の安全ボディ「新環状力骨構造ボディ」を採用し、

■スバルの安全思想



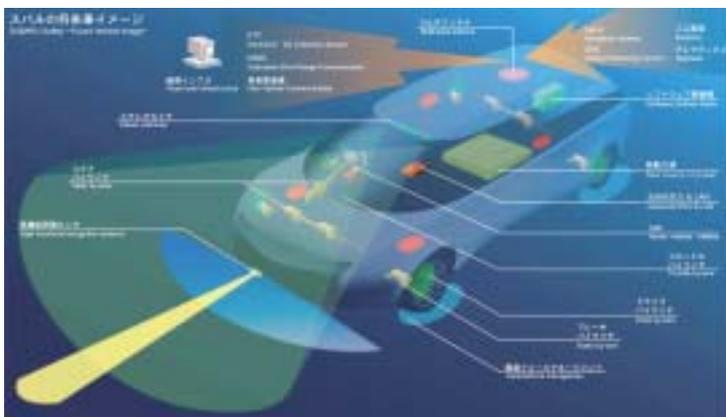
全方位からの衝突に対して安全なキャビン（生存空間）を確保しています。衝突安全開発はシミュレーションを活用し、多くの条件での実車衝突試験、シートベルトやエアバッグのコンポーネント試験を経て、安全なクルマに仕上げています。スバルの考える「パッシブセーフティ」はクルマの乗員の安全だけではなく、クルマ社会全体の被害を最小限にすることです。そのために衝突相手となりうるクルマや二輪車、歩行者などの保護にも十分配慮したコンパチビリティ（相互安全）という安全思想でクルマの開発に取り組んでいます。

この安全思想は最新の軽乗用車スバル ステラにも継承され、「新環状力骨構造ボディ」に普通乗用車と同じ高さのフレーム構造を持ったボディは、普通乗用車との衝突にまで対応できる高い安全性を実現しています。さらには高い歩行者保護性能や標準装備された鞭打ち低減シート、高張力鋼材の採用やテールドランク工法による車両の高剛性化と軽量化の両立など次世代の軽乗用車としてあらゆる安全性向上に取り組み、軽乗用車でありながら普通乗用車を凌ぐ高い安全性能を確保しています。

■スバルの走りと安全ロードマップ



■スバルの将来車のイメージ



交通安全社会実現への貢献

ITS^{※1}技術の活用

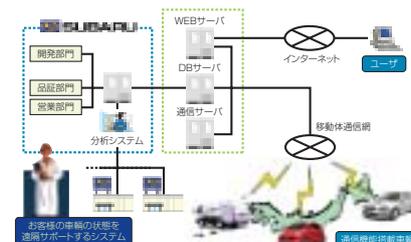
近い将来、クルマがネットワークにつながることで車外との情報共有が可能となります。スバルは、ITS技術を活用しより安全で快適な社会の実現を目指し、車の情報管理システムの開発を進めています。

このシステムは、走行中の車の状態を遠隔管理することで故障の未然に防止や部品劣化予測を可能とします。また、万一故障が発生した場合でも、速やかな対応が可能となります。現在はこの技術を電気自動車に適用し実証実験を行っています。従来の電気自動車の課題であった、部品の劣化状況や実用性能を最適に管理することで、お客さまに安心して電気自動車をご利用いただくためのサポートを行うことができます。これらの技術で、安全、環境の両側面から、社会との協調

を目指しています。

また、クルマを社会における1つのセンサーと考える「プローブ情報活用技術」の開発にも積極的に取り組んでいます。積雪地域で広くお使いいただいているスバルの特長を生かし、インターネットITS協議会の路面凍結情報収集実証実験ワーキンググループにも積極的に参画してきました。プローブ情報として収集した車輪速度やGPS情報、ABS作動情報などを活用した凍結路面の検出手法の研究や、それらの情報を用いたヒヤリハットマップの作成を、大学などの研究機関と共に進めることで、凍結路での事故防止を目指しています。これらの成果はインターネットITS協議会を通じて広く社会へ提案していきます。

■情報管理システム



インターネットITS協議会での実験の様子

人にやさしいクルマづくり

「トランスケアシリーズ」について

当社では、福祉車両の製造販売を1982年より開始し、「トランスケアシリーズ」の名称で皆さまにご愛顧いただいています。「トランスケア」とは、英語の「Transportation トランスポートーション(移動)」と「Care ケア(介護・思いやり)」を組み合わせた造語であり、スバルの福祉車両を総称するものとして1997年に商標登録を行いました。スバルでは、介護用商品に焦点を当て、介護する方もされる方もストレスなく扱える省力装置を開発していくことを目指しています。

福祉車両の概要

クルマとしてのトランスケアシリーズは、スバルR1、R2、サンバーなどワゴンタイプの軽自動車から、長距離ドライブが楽しいレガシィなどの小型・普通車まで、幅広い選択肢を提供しています。全車にウイングシート^{※2}仕様車を設定し、また、近年需要の高い車いす移動車では、軽自動車サンバーにおいて、車いすに乗ったまま乗降できる電動リフター^{※3}や、寝たまま乗降できるストレッチャー搭載タイプ^{※4}を提供しています。

トランスケアシリーズ 販売実績

スバルでは、「クルマと生きる幸せを、すべての人と分かち合うこと」を目指して、身体が不自由な方や高齢の方々にも安心して気持ちよくクルマにお乗りいただくために、福祉車両の開発・普及に努めています。また、2004年度より販売セールスのサービス・ケア・アテンダントの資格取得を推進し、福祉車両の販売におけるソフト面の充実も図っています。

■スバルトランスケアシリーズ販売台数の推移

(単位:台数)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005
普通(小型)車	13	32	63	103	88	130
軽自動車	397	469	475	401	464	427
出荷台数合計	410	501	537	504	552	557



スバル「R2」トランスケアウイングシート (R オプション装着車)



サンバートランスケア 電動リフター

※1: ITS (Intelligent Transport Systems) 次世代の高度道路交通システム ※2: ウイングシート: 助手席または左後席が回転し、スムーズな乗り降りをサポートできるシートです。レガシィやR2では、室内の居住性を重視し、室内でのシートスライドも電動でおこなえるようにしました。 ※3: 軽自動車唯一の「サイドリフト方式」を採用しています。横乗りの電気リフト式で、車道からではなく歩道から乗降でき、乗り降りする方の安全と安心感に配慮しています。 ※4: ストレッチャー= 患者を横になったまま移動させる際に用いる車輪のついたベッドのこと。ストレッチャー搭載タイプは軽自動車唯一の装備です。